

相撲専門部・熱中症対策ガイドライン

危機管理委員名 後 藤 剛
(所属校名) 矢板高等学校

熱中症対策

事前の対策

代表者会議にて大会日前の週間天気とWBGT値を参考にして開始時間、開催延期を検討する。

参考資料

(公財) 日本体育協会「スポーツ活動中の熱中症対策ガイドブック」

「環境省 熱中症予防情報サイト」

WBGT値 = 31°C以上になる時間帯に開始しない。

WBGT値 = 32°C以上になる時間帯に競技が行われている場合、水分補給、試合間の時間を確保する。

熱中症対策

各チームごとにスポーツドリンク等準備し、こまめな水分補給を促す。(試合間の給水も促す)

休憩場所は直射日光を避けて設置する。

WBGT数値をみながら競技間の休憩を確保し選手の負担を減らす。

大会/試合時の対策(当日の対応)

会場にWBGT計を準備し、測定した数値により対策を講じる。

「測定方法」 ①土俵上で測定する。日向と日陰になる場合は各場所で測定して平均値を出し判断する。

測定の高さ腰の位置(地面より約1m)で行う。

②測定する時間は開会式1時間前と開会式後に計測する。

③試合中も土俵に近い場所に起き計測を続け、数値を把握する。

WBGT = 31°C以上の場合は代表者が集まり、試合の中止、延期、やむを得ず行う場合は熱中症対策を講じた上で行う

WBGT = 28°C以上の場合は熱中症対策を講じた上で行う。

WBGT = 25°C以上の場合は熱中症対策を講じた上で行う。